

ムなど、図書館に関わるオープンソース・システムは確実な広がりを見せている。今後はオープン性を活かしてこのようなシステムと連携することにより、発展が停滞している商用システムに代り、一気に利用が加速する可能性がある。

世界的に運用が進められているオープンソースの図書館システムだが、今後、日本国内に浸透するためには何が必要だろうか。システム面では、日本に合わせた調整が必要である。日本語のメニュー、日本の書誌フォーマット/書誌ユーティリティへの対応をはじめ、表記の読みや配列を含めた日本語データの扱いを考慮する必要がある。運用面では、導入設定や運用サポートを行うベンダーの出現、海外との連携を含む国内のユーザーコミュニティの形成が必要になる。

オープンソースは、開発者とユーザーが世界規模で共同して作りあげる新しいシステムの開発形態である。日本でも、オープンソース・システムの利用を進めつつ、世界的な議論に参加することで、利用と貢献をバランスよく進めて行くことが重要になる。今後の展開に期待したい。

(一橋大学総合情報処理センターかねむねずみ：兼宗進)

Ref: Avanti MicroLCS. (online), available from <<http://home.earthlink.net/schlumpf/avanti/>>, (accessed 2004-07-09).

Koha. (online), available from <<http://koha.org/>>, (accessed 2004-07-09).

Breeding, Marshall. An Update on Open Source ILS. InformationToday. 19(9), 2002. (online), available from <<http://www.infoday.com/it/oct02/breeding.htm>>, (accessed 2004-07-09).

oss4lib: Open Source Systems for Libraries. (online), available from <<http://www.oss4lib.org/>>, (accessed 2004-07-09).

Eyler, Pat. Koha: a Gift to Libraries from New Zealand. LINUX Journal. (106), 2003, 58-60.

CA1530 電子ジャーナルのコンソーシアム利用が大学図書館の文献デリバリーへ及ぼす影響

近年、雑誌の危機 (Serials Crisis) への対応のため、図書館コンソーシアムの形成による電子ジャーナルの大規模な導入が世界各国で展開されている。コンソーシアムによる電子ジャーナルの導入は、特定出版社の全タイトル利用を中心とした大量の電子ジャーナルが、コンソーシアムに参加する相当数の図書館で同時にバックファイルも含めて利用できることを意味する。このような電子ジャーナルのコンソーシアム利用が大学図書館の文献デリバリーへ及ぼす影響についていくつかの事例を紹介したい。

1. 米国

オハイオリンク (OhioLINK; CA1165参照) は、オハイオ州の大学図書館コンソーシアムで1998年に電子ジャーナルセンター (Electronic Journal Center) を開始し、2004年現在、70以上の出版社の電子ジャーナル5,855タイトルを提供し、2003年には約388万件の論文がダウンロードされている⁽¹⁾。オハイオリンクの参加館の中で最も規模の大きなオハイオ州立大学図書館 (Ohio State University Libraries) では、表1のように電子ジャーナルセンターのサービスが開始された後であっても文献複写の依頼件数は減少していない。この理由についてキューン (Jennifer Kuehn) は、オハイオリンクが多数のデータベースに対するアクセスサービスを別に提供しているため雑誌論文に対する要求が増えていることと、電子ジャーナルのコレクションがある時期に一斉に提供されたわけではないことを指摘している⁽²⁾。

2. 英国

英国では合同情報システム委員会 (Joint Information Systems Committee: JISC) が全国電子サイトライセンス・イニシアティブ (National Electronic Site Licence Initiative: NESLI; CA1438参照) を設置し、1998年から2001年にかけて全国の高等教育機関を対象に電子ジャーナルを提供するための購読契約交渉を行った。これによって最大規模の文献供給センターである英国図書館 (British Library) が大学図書館の遠隔利用者に対して供給する文献件数は、1998/1999年度から2001/2002年度にかけて1,638,272件から1,327,922件に減少した。つまり3年間で18%減少した⁽³⁾。

ロンドン大学の聖ジョージ病院医学校図書館 (St George's Hospital Medical School Library) は、NESLIの電子ジャーナルやエルゼビア・サイエンスダイレクト (Elsevier ScienceDirect), ワイリー・インターサイエンス (Wiley InterScience) 等の電子ジャー

表1 1996/1997年度から2000/2001年度にかけてオハイオ州立大学が依頼したILL件数および充足率

年 度	1996/1997	1997/1998	1998/1999	1999/2000	2000/2001*
ILL 依頼 件 数	14,102	17,310	17,491	17,553	18,328
文献複写充足件数	6,016	6,909	8,381	7,948	8,355
現物貸借充足件数	5,069	5,168	4,873	4,362	4,498

*10ヶ月分の実績に基づく推定値
出典：Kuehn(2001)

ナルを1999年から利用しているが、表2のように1999年のILL (Interlibrary Loan) 受付件数は1998年に比べて約21%減少している⁽⁴⁾。

表2 1997年から2001年にかけて聖ジョージ病院
医学校図書館で処理したILL件数

年	1997	1998	1999	2000	2001
依頼 件 数	6,783	7,208	6,258	6,501	6,281
受付 件 数	5,348	5,035	3,992	3,183	3,246

出典：Robertson(2003)

グラスゴー大学図書館 (Glasgow University Library) は、2002年7月現在で5,526タイトルの電子ジャーナルを提供しているが、その約65%は冊子体雑誌を購読していないものである。提供している電子ジャーナルは、ブラックウェル、エルゼビア等の出版社の一括購読契約やEBSCO Business Source Premier, Gale Expanded Academic等のアグリゲータ・サービスによるものである。2001年に開始されたサイエンス・ダイレクトの利用によってエルゼビアの雑誌に対する文献デリバリーの依頼件数が激減したのは注目に値する。1998/1999年度のエルゼビアの雑誌に対する依頼件数は3,813件 (613タイトル) であったが、2001/2002年度は847件 (327タイトル) に減少した。それは77.8%の減少となる⁽⁵⁾。

3. 日本

国立大学図書館は2002年度に文部科学省から電子ジャーナル導入経費の配分を受け、ブラックウェル、エルゼビア、シュプリンガー、ワイリーの4社について国立大学図書館協議会電子ジャーナルコンソーシアムを成立させた。2002年度に利用できる国立大学の電子ジャー

ナルは平均して2,700タイトルであった⁽⁶⁾。これによって表3のようにNACSIS-ILLにおける国立大学図書館の2002年度の文献複写依頼件数は2001年度に比べて約10%減少している⁽⁷⁾。

上記の報告から分かるように、コンソーシアムによる電子ジャーナルの導入は文献デリバリーの減少に影響を与えている。しかしながら概括的な報告がほとんどであるため、文献デリバリーが減少した具体的なタイトル、論文の出版年、図書館間の処理量などについては必ずしも明確ではない。包括的で精緻な個別大学レベルの調査報告が待たれるところである。

(山形大学附属図書館：加藤信哉^{かとうしんや})

- (1) 高木和子. OhioLINK最近の活動状況と今後の計画. 情報管理. 47(3), 2004, 204-211.
- (2) Kuehn, Jennifer. We're still here: Traditional ILL after OhioLINK Patron-initiated requesting and Ejournals. Paper presented at the 67th IFLA Council and General Conference August 16-25, 2001. (063-108-E). (online), available from <http://www.ifla.org/IV/ifla67/papers/063-108e.pdf>, (accessed 2004-07-09).
- (3) British Library. "Funding Agreement and Key Performance Indicators". The British Library 29th annual report and accounts 2001/2002. 2002, 22. (online), available from <http://www.bl.uk/about/annual/pdf/perfindic.pdf>, (accessed 2004-07-09).
- (4) Robertson, Victoria. The impact of electronic journals on academic libraries: the changing relationship between journals, acquisitions and inter-library loans department roles and functions. Interlending & Document Supply. 31(3), 2003, 174-179.
ロバートソン, ヴィクトリア. (加藤信哉訳) 電子ジャーナルが大学図書館に及ぼす影響: 雑誌部門, 収書部門および相互貸借部門の役割と機能の変化. オンライン検索. 24(3/4), 2003, 155-163.

表3 1999年度から2003年度におけるNACSIS-ILL文献複写依頼件数の推移

年 度	1999	2000	2001	2002	2003
国立大学	637,517	617,586	610,150	551,172	502,175
公立大学	73,373	95,229	105,586	112,202	127,129
私立大学	174,298	205,914	249,204	301,967	346,546
その他	63,548	69,728	73,034	78,090	84,584
合計	948,736	988,457	1,037,974	1,043,431	1,060,434

出典：国立情報学研究所. ILL流動統計(館種別)(オンライン) 入手先
<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill_stat_flowdata>, (参照2004-07-09).

- (5) Kidd, Tony. Does electronic journal access affect document delivery requests? Some data from Glasgow University Library. *Interlending & Document Supply*. 31(4), 2003, 264-269.
- (6) 国立大学図書館協議会電子ジャーナル・タスクフォース. 国立大学図書館協議会電子ジャーナル・タスクフォース活動報告書. 2004, 62p(オンライン). 入手先<http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/projects/ej/katsudo_report.pdf>, (参照2004-09-01)
- (7) 国立情報学研究所. ILL流動統計(館種別). (オンライン), 入手先<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/nill_stat_flowdata>, (参照2004-07-09).

CA1531 中国 中国国家図書館のウェブ・アーカイビング

はじめに

情報が、空間的、時間的安定性を欠いているというインターネットの限界を克服しようという試みは、近年、世界中の国立図書館等を中心に行われ始めている。それは、ワールド・ワイド・ウェブ上の情報資源を収集し蓄積する「ウェブ・アーカイビング(web archiving)」と呼ばれている。中国国家図書館(National Library of China : NLC)では、2003年1月より「ウェブ情報資源の収集と保存実験プロジェクト(Web Information Collection and Preservation : WICP)」（E163参照）を開始した。本稿はWICPをめぐる実践について報告する。

1. NLCについて

NLCは、中国国内で刊行される出版物を納本制度により網羅的に収集蓄積し、文化遺産として長く保存する役割を担っている。NLCは、市場や一般の図書館から入手できない資料を、最後のサプライ・センターとして提供する機能を持っている。納入の対象となる出版物としては、図書、逐次刊行物、音声資料、パッケージ系電子出版物等が挙げられる。インターネット情報等の「ネットワーク系電子出版物」の納入対象化については、2003年5月に中国国家図書館長から中国図書館法起草委員会に対し提案がなされ、現在審議中である。

21世紀における中国の重要な国家戦略の一環として、2001年10月に、中国政府は、情報化社会に対応するための基盤プロジェクトとして、中国デジタル・ライブラリー・プロジェクト(China Digital Library Project)を発足させた。ウェブ・アーカイビングは当該プロジェクトにおける情報資源構築の重要な要素である。NLCは当該プロジェクトの中核を占めていて、ウェブ・アーカイビングに関する施策の推進と技術的試験を積極的に進めている。

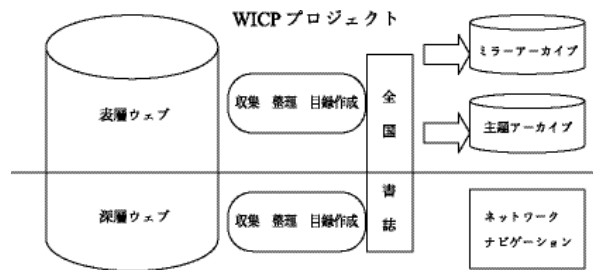
2. NLCの取り組み

ウェブ情報資源は中華文明の成果でありデジタル文化遺産の一部であるから、適切に保存・保護されな

なければならない。また、ウェブ情報資源はNLCの蔵書構築とサービスにとって戦略的意義を持つものであるから、NLCは伝統的な図書資料の収集と同じように、各種ウェブ情報資源を網羅的に収集しなければならない、と考えている。

ウェブには、表層ウェブと深層ウェブの2つの種類がある。表層ウェブは主に静的なHTML等で構成され、ロボットで比較的容易に収集できる。データベース等の深層ウェブは、アクセスの都度動的に生成され、十分な収集は困難である。NLCは、ウェブ情報資源の収集と保存に関して、表層ウェブと深層ウェブに対し、異なる組織化戦術を取っている。即ち、WICPプロジェクトとODBNプロジェクト(Online DataBase Navigation)である(下図参照)。

図 WICPプロジェクトとODBNプロジェクト



ロボットによる表層ウェブの収集はウェブ・アーカイビングの代表的な手段である。まず、ロボットを用いて、ウェブのデータを図書館のアーカイブ用サーバに複製することによって、情報を「記録化」する。これによって、情報が更新、削除される恐れがなくなり、内容の安定性が確保される。また、収集した情報の組織化を行うことによって、情報の存在を空間的に安定させる。さらに、この収集した情報を将来のために保存することによって、継続的なアクセスを保証し、情報の存在を時間的にも安定させる。

3. WICPとその業務モデル

今のところ、WICPは「選択的収集」のアプローチを取っている。個々のウェブ情報について、サイトとウェブページ単位で選択して収集している。

a) サイト単位でミラーアーカイブ

ウェブロボットを用い、あるサイトのトップページからダウンロードしていき、ダウンロードしたデータは原本のディレクトリ構造を維持し、一つの情報ユニットとして保存する。ウェブ情報は頻繁に更新されるため、同じタイトル、同じURLであっても、情報の更新にあわせて異なる時点で同一対象を重複ダウンロードする必要がある。このようにして複数の情報ユニットが作られ、すべての情報ユニットはウェブ情報の一つの「版」と見なされる。

ダブリン・コアによって、収集したウェブ情報の目